

112 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (12)
テーマ：人文と社会科学との対話からみる若手研究人材の育成

徐興慶 教授 (第十二講座 / 要約)

2023.11.30

一、東アジア日本研究者協議會(EACJS:East Asian Consortium of Japanese Studies)

1. 成立背景:

2016年に韓国の仁川で設立され、東アジアの日本研究者(博士課程、修士課程を含む)が集まり、学術研究を通じて相互交流する組織です。この協議会は2017年に中国の南開大学、2018年に京都国際日本文化研究センター、2019年に台湾大学、2021年に韓国の高麗大学、2022年に北京外国語大学日本学研究センター、2023年に東京外国語大学など関連する研究機関が交代で年次大会を主催してきています。

2. 成立目的:

2024年には台湾の淡江大学が年次大会を主催する予定で、その後、協議会は「東アジア日本研究学会」の設立を計画しており、これにより AAS (Association for Asian Studies、北米アジア研究協会) および EAJS (European Association for Japanese Studies、欧州日本研究協会) との連携を通じて、日本研究の国際的な交流と対話を展開し、若手研究者の育成における学術的な力と機能を発揮していきます。

二、Eurasia Foundation の教育理念

1. 掲げた目標と精神：「アジア共同体」は如何に実現できるかということ。
2. 敏感な政治、経済問題から離れ、文化、教育の領域から「アジア共同体」の実現について考える。
3. 2023年現在、財団は世界 58 カ国、574 の大学に国際講座の開設に助成を行っています。さらに、現在 151 の大学が申請中で、世界中で合計 725 の大学

に助成が行われる予定です。

4. 台湾では 16 の大学で Eurasia Foundation の国際講座が実施され、実施中の大学は 13 校です。中国文化大学は 2018 年から 2023 年までの間、6 つのプログラムを実施してきました。また、中国文化大学の日本研究センターは、この国際講座の実施に合わせて、全国の大学生及び大学院生向けに 5 回のワークショップを開催しました。それぞれ、2018 年に「人文と社会科学との対話：多元的視点で見る東アジア共同体」「国際社会と東アジア」「東アジアを取り巻く国際情勢」といったテーマに 3 回、2019 年に「東アジアの文化と政治経済」「東アジア文化圏と日本」といったテーマに 2 回が開催され、25 人の国内外の学者・専門家による多領域にわたる国際講座が行われ、約 400 人の大学生や大学院生が参加し、人材育成の機能が発揮されました。

三、中国文化大学東アジア人文社会科学研究院

2019 年 10 月に、学内の学際的な研究人材を統合するために、東アジア人文社会科学研究院(IEAHS : The Institute of East Asian Humanities and Social Sciences)が設立されました。東アジア地域の人文社会科学の研究及び国際的学術交流と協力を促進することを目的としています。研究院設立の際には、積極的に各国の重要な東アジア学術研究機関と MOU を締結し、中国、日本、韓国、ベトナムなど 15 の研究機関と学術交流協定を締結しました。これは、国際共同研究の新たな視点を拡大し、多元文化交流の促進及び新世代の研究者の育成を目的としています。

結び：知日研究人材育成の必要性

1. 日本と台湾には多くの共通点があります。両国ともアジア大陸の東側に位置し、ともに弧を描くように広がる島国であり、地震が頻発する地域でもあります。両国は災害救助、医療、少子高齢化、環境汚染など、様々な社会問題に対処するために、各分野における研究人材の育成を必要としています。
2. 日台間には航路や漁業資源など共通の利益があります。交渉にはお互いを深く理解する人材が不可欠であり、公共部門や民間部門の両方が相手国を深く理解する優れた人材の育成を必要としています。これは切実かつ現実的な問題であり、同時にわれわれ日本研究者が認識すべき責務です。つまり、研

究と教育を通じて日台関係の発展を促進することを期待しています。

中国語まとめ 徐興慶

日本語翻訳 陳順益

2023. 12. 10